

おしゃべりコーナー

(目次)

< 今月の歌 >

三浦 洸一「踊子」

(竹の台・米田哲夫)

< 西神の花 >

「ローズマリー」

(竹の台・タイガー)

< ショート・ショート >

「宿」

(春日台・大西 No.25)

< 今月の歌 > 三浦洸一 「踊子」

<https://youtu.be/csDvAouI6ug?si=9VbPgSNLhOR2wBmJ>

川端康成原作の「伊豆の踊子」はずいぶんと映画化されました。高峰秀子、美空ひばり、吉永小百合、山口百恵さんたちが踊り子「薫」を演じました。昭和30年代に三浦洸一が「踊子」を歌いました。いくら探してもその詞は見つかりませんでした。「さよならも言えず、泣いていた、私の踊子よ、ああ船が出る…」「絵のようにあでやかで袖が雨にぬれていた…」などは覚えていますが…。誰か探してくれませんか。とっても素晴らしい歌です。私が言いたかったのは多くの女優が「薫」を演じましたが「絵のようにあでやかで…」は吉永小百合の「踊り子」が私には最も素晴らしいと感じたのです。

(歌詞は西井さんが見つけて下さいました。)

さよならも 言えず 泣いている
私の踊子よああ 船が出る

天城峠で 会(お)うた日は
絵のように あでやかな
袖が雨に 濡れていた
赤い袖に 白い雨.....

月のきれいな 伊豆の宿
紅いろの 灯(ともしび)に
かざす扇 舞いすがた
細い指の なつかしさ.....

さよならも 言えず 泣いている
私の踊子よああ 船が出る

下田街道 海を見て
目をあげた 前髪の
小さな櫛も 忘れぬ
伊豆の旅よ さようなら.....

作詞：喜志邦三
作曲：渡久地政信



(竹の台・米田哲夫)

[目次へ](#)

< 西神の花 > 「ローズマリー」

センターブリッジから美賀多台2丁目バス停に行くまでの途中、地味ですが、ローズマリーの群生があります。初夏には可憐な花を、そして年中、心安らぐハーブの香りを楽しませてくれます。

コロナの後遺症で、嗅覚障害に苦しんだ僕にとっては、このローズマリーの香りが嗅覚回復の道しるべでした。

学生時代、「卒業」というダスティン・ホフマン主演の映画で、「スカボロフフェア」という挿入歌が流れましたが、繰り返し、パセリ、セージ、ローズマリー、タイムとハーブ草が登場します。イギリスの吟遊詩をポール・サイモンが粹狂に歌ったと思っていましたが、最近、ネルソンさんの映画を



見て、詠唱に深い意味が込められていることに気づきました。ポール・サイモンは、当時、泥沼に入っていたベトナム戦争への密やかな抗議の意思を込めていたのです。

(3番の詠唱)

On the side of a hill, a sprinkling of leaves
Washes the grave with silvery tears
A soldier cleans and polishes a gun
丘のそば 舞い散る落葉
墓を濡らす銀色の涙
兵士は銃を掃除し磨き上げる

(4番の詠唱)

War bellows blazing in scarlet battalions
Generals order their soldiers to kill
And to fight for a cause they've long ago forgotten
戦いの怒号が深紅の大軍に燃え立ち
将軍は兵士に「殺せ」と命じている
そして、「戦え」と、忘れ去られた大義のために

(竹の台・タイガー) [目次へ](#)

<ショート・ショート> ちょっとした気づきやつぶやき・・・

「宿」

鹿児島島の山深い宿に
五右衛門風呂があり、
湯は黄緑色のバスクリンだった。

会社に入って 2 年目、
研修報告をまとめるため、
友人とふたりで
作並温泉に出かけた。

昼から酒を飲み、湯に浸かり
報告書は 1 頁も進まなかった。

雲仙の温泉宿では、
大きな広間の真ん中に
布団が敷いてあった。
心細くなって壁の方に
移して休んだ。

旅の宿には、小さな感傷が
詰まっていた。



No.25 春日台・大西

[目次へ](#)